

気候変動対策資材として、三井物産アグロビジネス(株)の
バイオスティミュラント資材「MABooSTシリーズ」をご紹介します。

バイオスティミュラント(BST)とは？

バイオスティミュラント(BST)を日本語に直訳すると「生物刺激剤」。植物や土壌により良い生理状態をもたらす様々な物質や微生物のことを指します。BSTは近年、異常気象をはじめとする非生物学的ストレスを軽減し、作物の安定生産が期待できる新しい農業資材として世界的に注目が集まっています。BSTを我々の実生活に例えるならば、「保険」をイメージすると分かりやすいかもしれません。「いつ？なにが？どのように？」やってくるか分からない災害に対し、それが起こっても動じない

生育環境を準備しておくということです。

BSTは、植物の免疫系を活性化し、根張り・収量の向上や乾燥/過湿耐性、耐病性、耐高/低温性、耐塩性といった効果を付与する資材とされます。その原料は微生物や多糖類、ペプチド、有機酸、ミネラル、腐植物質など多岐に渡り、そのすべてが自然物の安全な物質に由来します。

気候や土壌のコンディションに起因する植物のダメージを軽減することで、健全・安定な植物提供への寄与が期待できます。

MABooST(マブースト)とは？

「MABooST」とは、三井物産アグロビジネス(株)が展開するBST製品のブランド名称で、MAB(三井物産アグロビジネス)、BST(バイオスティミュラント)、Boost(促進作用、増加・上昇させる)による合成造語です。また、ブランドマークには三井物産の「三」、BSTのバイオニア・旗振り役としての「旗」、作物の生育を促進する「上昇」の意味が込められ、生産者の作物づくりに貢献していくという想いが込めてあります。

MABooST製品シリーズのご紹介

三井物産アグロビジネス(株)は、「MABooST」製品のラインナップを通して、今後も引き続き生産現場での課題・悩みの解決に繋がるBST商品群をご提案してまいります。

BASE UP-G[®]

ベースアップG

作物の生育土台(ベース)を
長期間底上げる
粒状バイオスティミュラント資材



ギガフォル[®]

様々な環境ストレスに対する
作物の自己防御力を高める
総合ストレス軽減剤



イールダーワン[®]

穀物の登熟を促進する
バイオスティミュラント資材



Aminomikoto⁺

アミノミコトプラス

速効性を併せ持つ
アミノ酸バイオスティミュラント資材



穀物の登熟を促進する
バイオスティミュラント液剤

イールダーワン[®]



【イールダーワンの使用方法】

作物名	使用時期	散布方法	散布量 (mL/10a/回)	散布回数	期待される効果
秋小麦	開花始期	葉面散布 (ブームスプレーヤー等) 空中散布 (ヘリドローン等)	200	1回	精麦歩合および 千粒重の増加による増収
春小麦	開花始期				
大豆	着莢始期		100～200	1～2回	稔実莢数、 100粒重の増加による増収
小豆	着莢始期				
水稻	穂ばらみ期 ～出穂始期				精玄米歩合および 千粒重の増加による増収
トウモロコシ (スイートコーン)	本葉: 4～6葉期		200	1回	雌穂の肥大促進、 登熟向上による増収

【Q&A】

Q1 麦に使う場合、200mL/10aの1回散布と
100mL/10aの2回散布のどちらが良いですか？

A1 200mL/10aで開花始期に1回散布をお勧めします。

Q3 散布適期を過ぎて使用しても、効果は出ますか？

A3 効果はゼロではありませんが、高い効果は期待できないと思われます。

Q5 空中散布の場合、高濃度散布(8倍希釈等)はできますか？

A5 事前に少量混用を実施し、必ず安全性を確認してからご使用ください。

Q7 開封済みや未開封のものを翌年使っても大丈夫ですか？

A7 未開封なら大丈夫ですが、開封したものは原則使い切ってください。

Q9 生産物の品質向上は期待できますか？

A9 水稻でのタンパク低減、食味向上の事例があります。

Q11 散布直後に雨が降ったが、再散布した方が良いですか？

A11 当日に降雨予報がある時は散布しないでください。もし、散布後当日に降雨があった際は再散布をお勧めします。

【使用上の注意】

- 農薬との混用事例もありますが、農薬混用の際は事前に少量混用試験を行い、散布に問題ないことをお確かめください。
- 強アルカリ性資材(石灰硫黄合剤等)、銅剤との混用散布は避けてください。
- 幼児の手の届かないところに保管してください。誤って飲み込んだ場合、直ちに医師の診断を受けてください。

【上手な使い方】

- 500～1000倍に希釈し、使用回数は1～2回/作を目安としてください。
- 農薬との混用事例もありますが、農薬と混用する際には、ご自身で少量混用を実施の上、安全の確認を行うことを推奨します。
- 濡れ性の悪い作物では、非イオン型エーテル系展着剤の併用をお勧めします。

Q2 穂ばらみ期と開花始期では、
どちらの時期に散布した方が良いですか？

A2 開花始期をお勧めします。

Q4 散布時期による効果の差異はありますか？

A4 あります。取扱代理店にご確認ください。

Q6 農薬や他の液肥と混用しても大丈夫ですか？

A6 事前に少量混用を実施し、必ず安全性を確認してからご使用ください。

Q8 冬期は、保管時に凍りますか？

A8 冬期には凍る恐れがあります。越冬する際は、凍結しない環境で保管するようにしてください。

Q10 タンクに残っているものを翌日に散布しても大丈夫ですか？

A10 製品変化の可能性があるので、当日中に使い切るようにしてください。

Q12 イールダーワンは農薬と肥料のどちらですか？

A12 肥料です。液状肥料として肥料登録されています。

- 施肥作業後は、洗顔やうがいをし、皮膚等への付着物を洗い流してください。
- 開封後は短時間で使い切ってください。開封後に保管する場合、密閉して直射日光を避け、乾燥した場所で保管してください。
- 散布溶液を作成した場合、当日中にご使用ください。

総輸入元

三井物産アグロビジネス株式会社

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町1-5 PMO日本橋江戸通6階
https://www.mitsui-agro.co.jp/

代理店

穀物の登熟を促進する バイオスティミュラント液剤

イールダーワン[®]



収量を高める、
ワンショット・ブースター！

解き放て、
植物の力。

三井物産アグロビジネス株式会社



環境ストレスに負けない、
穀物登熟へのワンショット・ブースター！



わずか1回の散布で、光合成産物の実への転流と実の肥大を促進します。

昨今の厳しい環境ストレスの中でも、穀物の登熟を促進させ、

収量・品質の維持や向上が期待できるバイオスティミュラント資材です。

イールダーワンの特長

1: 1回の葉面散布で効果を発揮

様々な植物生理活性に好影響を与える海藻エキスと2種類の植物抽出物（イネ科、アカサ科）を主原料とした葉面散布用液肥で、1回の葉面散布で効果を発揮します。葉面散布後、植物体内に取り込まれれば、収穫までバイオスティミュラントとしての効果が持続します。

2: 転流&栄養輸送をダブルで促進

光合成により、葉でできた糖類などが登熟過程の実への輸送（転流）を促進させます。植物の発育と代謝に必要な硝酸態チッソ、微量元素（マンガン・亜鉛・銅等）の吸収と植物体内での輸送（転流）を促進させ、同時にリン酸の吸収と利用効率も高まります。

3: 植物ホルモンのバランスを調整

植物ホルモン（オーキシンとサイトカイニン）のバランスを調整し、実の適切な発達と成熟を促進させます。
※オーキシン：根・葉・花などの器官形成に関与 サイトカイニン：細胞分裂の促進に関与

穀物の登熟を増進する バイオスティミュラント液剤

イールダーワン®

【製品概要】

肥料登録：液状肥料（輸第107606号） 使用量：原液100～200mℓ/10a/回
施肥方法：葉面散布 使用回数：1～2回/作
希釈倍率：500～1,000倍

pH		保証成分			其他含有成分		比重	色
原液	100倍液	窒素全量 (TN)	水溶性加里 (WK)	マンガン	モリブデン	亜鉛	1.2	黒
6.2	6.5	2.0%	2.0%	0.30%	0.20%	0.50%		

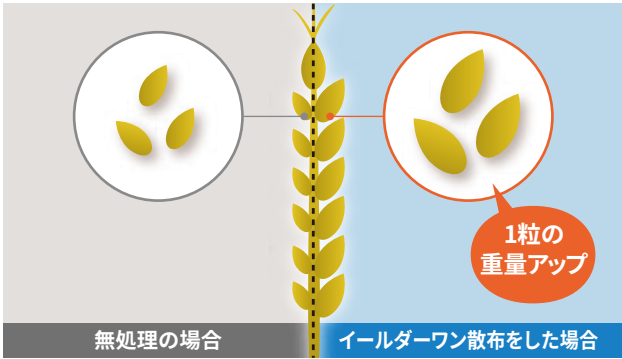


イールダーワンの効能と事例

千粒重が増加！ ※小麦の場合

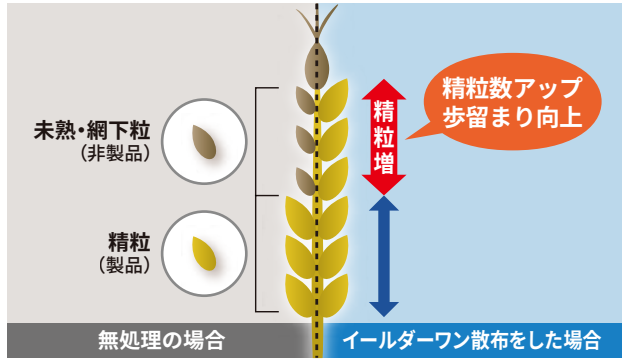
イールダーワンの効果で転流を促進し、1粒1粒に運ばれる糖類（※）などが増加。1粒あたりの重量が増え、千粒重/百粒重の増加が期待できます。また、ストレス（気候変動）等により着粒数が少ない場合でも、実を太らせ、製品収量の維持/向上に寄与することが期待されます。（＝バイオスティミュラント効果）

※糖類：光合成で生成される炭水化物を指します。



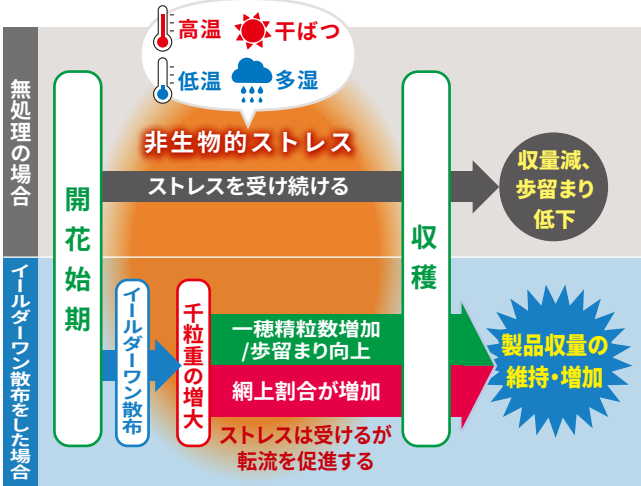
一穂精粒数が増加！ ※小麦の場合

通常の登熟過程では糖類などの栄養が行き届かず、未熟になる粒に対しても、イールダーワンの効果で転流が促進され、未熟粒・網下割れが低減。結果、一穂あたりの精粒数が増加。最終的な「製品歩留まりの向上」が期待できます。また、ストレス（気候変動）等により、着粒数が多い（細麦傾向）場合でも精粒数の増加により、収量の維持/向上が期待されます。（＝バイオスティミュラント効果）

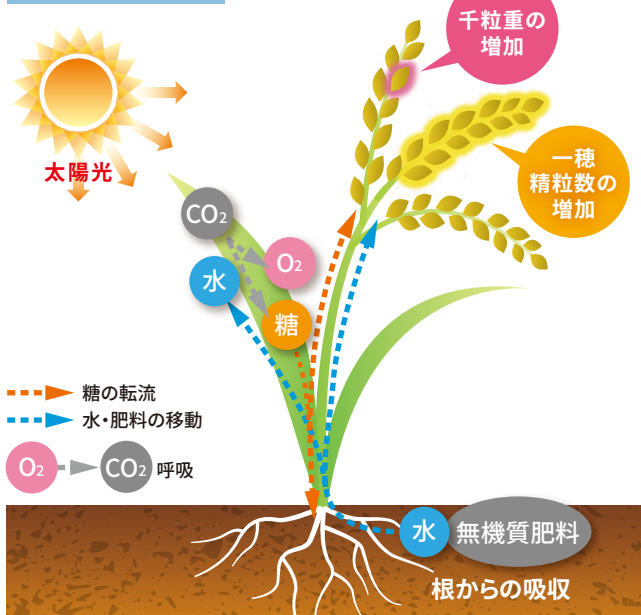


製品収量が増加！ ※小麦の場合

イールダーワンの効果で転流が促進され、「千粒重の増大」と「一穂精粒数の増加」の“ダブル”効果で、収量が維持/向上すると考えられます。



植物の体内イメージ



使用者の声

「収穫するまで明確な差異は見られなかったが、坪刈りすると、千粒重や製品収量に差があり、改めて収量向上を実感した。」

「集荷所の伝票を見て、近隣圃場との差を強く感じた。周囲の生産者にもお勧めしたい。」

「1回の散布で済む手軽さ、実収量の向上という2点が非常に魅力的。特に、細麦になりそうな年には収量維持のために使用継続したい。」

【 水稲生産者 / A様 】

稲 類						
	一穂初数		千粒重		精玄米収量	
	平均	最大値	平均	最大値	平均	最大値
水稲	105%	108%	102%	104%	105%	106%

【 大豆生産者 / B様 】

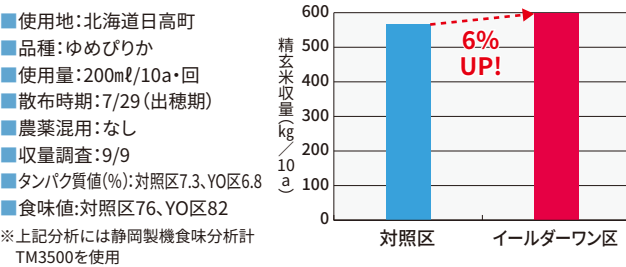
豆 類						
	一英内粒数		百粒重		製品収量	
	平均	最大値	平均	最大値	平均	最大値
大豆	104%	111%	102%	107%	112%	115%
小豆	103%	103%	95%	95%	106%	106%

【 小麦生産者 / C様 】

麦 類						
	一穗精粒数		千粒重		製品収量	
	平均	最大値	平均	最大値	平均	最大値
秋小麦	105%	122%	103%	110%	108%	125%
春小麦	110%	113%	101%	102%	109%	110%

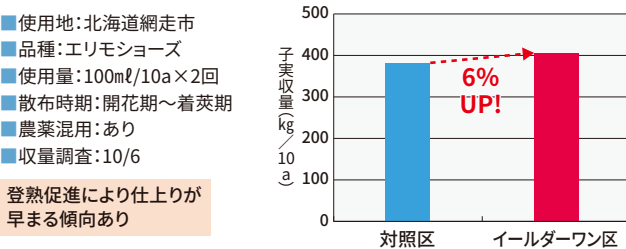
水稲

◎一穂精粒数の増加



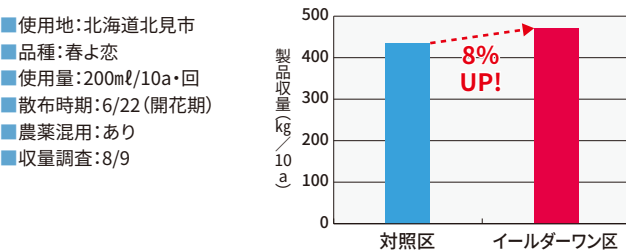
小豆

◎総実英数&一英内粒数の増加



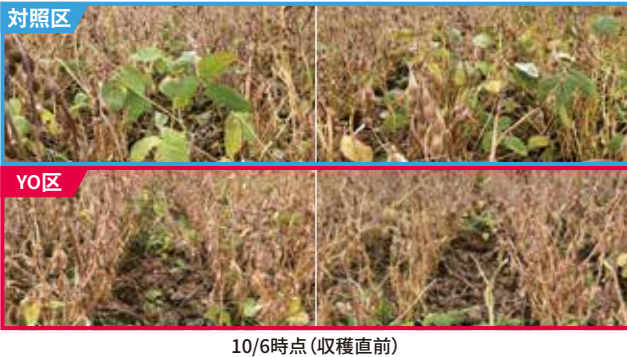
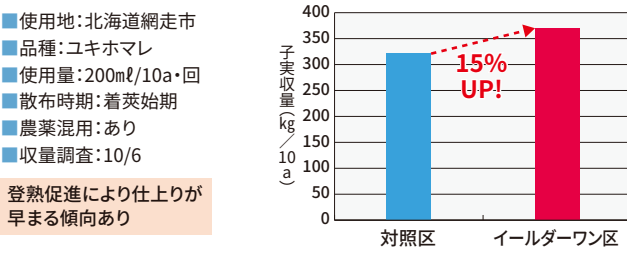
春撒き小麦

◎一穂精粒数&千粒重の増加



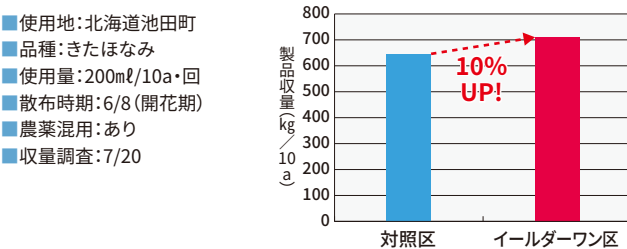
大豆

◎総実英数&百粒重の増加



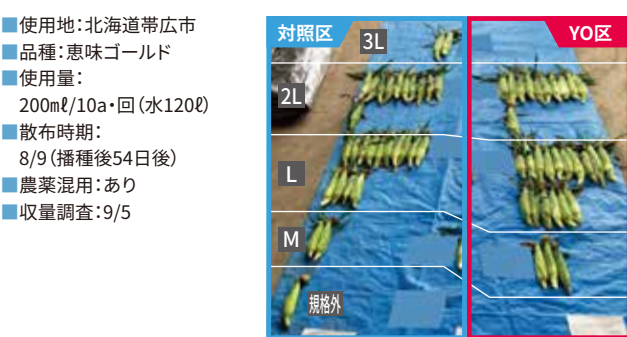
秋撒き小麦

◎一穂精粒数&千粒重の増加



スイートコーン

◎規格内収量の増加



【 収量(kg/10a) 】

	3L	2L	L	M	規格外 (小)	総収量 (kg/10a)	規格内収量 (kg/10a)
対照区	154	709	739	85	36	1,722	1,686
YO区	0	701	986	40	0	1,727	1,727

【 出荷本数(本/10a) 】

	3L	2L	L	M	規格外 (小)	規格内本数 (本/10a)
対照区	262	1,441	1,834	262	131	3,800
YO区	0	1,441	2,227	262	0	3,931